

SCOUTING 茨城

1996年・11月☆茨城県連盟広報委員会発行



副連盟長 吉田孝俊先生 逝去

平成8年10月13日の午後11時51分に吉田先生には、昨日から入院されていましたが、取手協同病院で逝去されました。

あまりに急で驚きましたが「急性心筋梗塞」でした。享年 74歳でした。

永年理事長として敏腕を振るわれ、この6月から副連盟長に就任されたばかりでした。

吉田孝俊先生には、副理事長を12年間、理事長として6年間県連盟の運営に尽力され、また、ボーイスカウト日本連盟中央審議会議員として、日本のボーイスカウト運動の発展に大きな功績を残されました。

これからも、県連盟の運営にご指導を賜る矢先の出来事で残念でなりません。

10月15日 お通夜・16日告別式を取手市の弘経寺で執り行い、日本連盟・関東各県連盟の役員や関係団体と茨城県連盟の関連盟長はじめ多くの役員が列席され、個人の功績と思い出を偲びました。

先生は、日本全国では「アパッチ」で名がとおっており、オーストラリアでは「日本のキャプテンクック」で有名でした。

また、キャンベラ市の「名誉市民」でもありました。心からお悔やみ申し上げます。

世界スカウト財団総裁 スウェーデン国王陛下 をお迎えしての晩餐会

世界スカウト財団名誉総裁カール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下が「順国賓」として来日され、10月10日那須の営場での「ウッドバッジ・ユニオン」に参加され、茨城県連盟からは武田理事外5名が出席し、10日夜は宮中で天皇陛下との晩餐会。11日夜は、東京会館で国王陛下生誕50年特別晩餐会に各県代表（正副理事長・県コミ・事務局長と日本連盟中央審

議会）400名が参加してお祝いいたしました。

茨城県連盟からは、川又・吉田中央審議会議員・室井副コミ・堀江事務局長・武田理事（特別参加）の5名が列席しました。



カール16世
グスタフ陛下

日本連盟
佐波理事長

新理事長・県コミッショナー の就任

平成8年6月2日の「年次総会」で永年理事長として敏腕を振るわれた、吉田孝俊先生が退任されました。理事会の互選により、

新理事長に 刈部 操 さん
新県コミッショナーに 津久井 一 茂 さん

が就任されました。

新しい体勢で更に良い運営を期待いたします。

平成8年度 「スカウトカントリー大作戦」

秋晴れの好天に恵まれて、日本全国で「地球環境についてより深く考え、身近で出来る活動」をテーマに県内各地で多くの関係者が大作戦を繰り広げました。

奉仕報告団 42団 1,961名

回収した空かん 27,263個

カントリー大作戦以外にも11団が、募金や敬老の日の活動と、環境を大切にする活動など、奉仕されまし

た。

日本全国で 889,593個の空缶が回収されました。

第2回オーストラリア 派遣を終えて

派遣団長 堀 江 郁 男

平成8年3月23日シニアスカウト12名、指導者8名の第2回オーストラリア派遣団が成田を発ち、初秋のキャンベラに到着。今年は夏が短く既に紅葉が始まっており、昨年より1カ月前も早い紅葉とのことでキャンベラ市街は、美しい景観で日本の10月末の風情でした。

昨年9月に土浦青少年の家でお逢いした、キャンベラ国立大学のホリス博士が、今回の派遣をすべて計画して下さいました。

キャンベラ空港到着後、4人がアクティビティに出発。また、ホームステイ先の家族とともに毎夜、各団のベンチャー隊の隊集会に参加するなど、忙しいが意義のある派遣でした。

今年は、昨年行けなかったゴールドクreek牧場の羊の毛刈り、牧羊犬のショーとバーベキューの昼食、日本大使館の訪問、テイトピンピラ自然保護区でのコアラ・カンガルー・エミューとの触れ合い、アメリカ「NASA」の人工衛星追跡所の見学など、数多くの場所を見学して3月26日はキャンベラ連盟の野営場のキャンプ。

大自然の中にあるこのキャンプ場は、自然のカンガルーが飛びかい、日本では出来ない素晴らしい環境、野営場の下を流れる川での水泳、大自然の中での営火など1泊ではあるが大きな経験をしました。

3月27日バスで大自然の高速道路をシドニーへ。シドニー連盟を訪問後、午後「ベーデンパウエル野営場」に到着し、設営・近くのスーパーでの買物、この野営地は1931年にベーデンパウエルご夫妻が訪問された由緒ある野営場ではあるが、近くは住宅地となり便利では有るが、キャンベラのような牧歌的な野営場とはいえない。

今回の派遣団は、副団長に武田理事、団員に若生理事・取手1団の種田君、隊長には中島清行さん、副長は阿見1団の村田・佐藤両君、通訳に石山さんと第1回にも参加した面々で、非常に揃ったメンバーのためすべてがスムーズに進行した。

中島隊長は、昨年手に入れた地図を頼りにシドニー

野営場付近のハイキング（派遣隊員にはすごく好評でした）

それぞれの班が「目的」をもって自分たちで計画して班ごとに、電車を乗り継いでのシドニーハイク、言葉の壁を乗り越えて目的を達成した喜びは、夜の報告会でも感じられた。さすがシニア隊員だと感じた。

また、ブルーマウンテン（日本の日光のようなシドニーの観光地）に途中からのハイキングも変化に富んでいて、今回は昨年経験のできなかった、多くの事を実施して本当にバラエティに富んだ派遣であった。

ヨーロッパから成田経由で、わざわざ飛んで来てくれたシドニーの親しい友人のパート（アルパート・スタムさん）は堀江がシドニーに派遣団長としてきているからと、尋ねてくれて武田さんと3人で夕食をしながら、1年降りて話しあいました。（彼の奥さんは日本人で東京の実家に）

キャンベラのホリス博士のお世話で、素晴らしいホームステイと各地のベンチャー隊との交流や、多くのチャレンジと、隊員も11日間目まぐるしくも、2度と出来ない楽しい貴重な体験をされたことと思います。

2日間のホストファミリーを通じて、多少なりともオーストラリアの人々の生活や、文化・伝統・スカウト活動の一端を知っていただけたと思います。

野営場で夜見た、美しい「南十字星」を忘れずに、これからのスカウト活動に、高校生活に頑張ってください。

4 N V に参加して

水戸4団ベンチャー隊長 小 堀 通 治

2 N V の時は茨城1隊の副長として、3 N V は主会場の庶務班員として参加しました。そして今回の4 N V は、副長として後半の5日から8日まで奉仕しようと意向を日連に伝えましたが結果的には、岡山県新見草間第一基地のB隊々長を服務する破目になりました。副長は、地元のローバースカウトで、徳島大学1年の穂積さんでした。前半の1日から4日までは、水戸4団B S 副長の吉川さんが隊長をつとめてました。

先は、4 N V の概要を紹介しておきます。

1. 期間 8月1日～8月8日
2. 主会場 島根県太田市三瓶町島根県立北の里キャンプ場
3. 活動基地

基地名	主な活動	人数
①岡山県牛窓基地	ヨット	80
②広島県江田島基地	カッター研修	560

③広島県宮島基地	ヨット	240
海④広島県向島基地	カヌー	160
⑤山口県光基地	ヨット	160
⑥香川県豊〇基地	地引網他	240
⑦徳島県阿南基地	ヨット他	80
⑧岡山県新見草間基地第1オリエンテーリング		
⑨岡山県新見草間基地第2フォックステーリング		
山⑩岡山県新見草間基地第3洞窟探検		320
高⑪山口県萩基地	移動キャンプ	320
原⑫愛媛県松山基地	登山他	160
⑧は240名、⑨は160名で総合計2720名。		

4. テーマ「未知への挑戦」

一先人の知恵をたずねてー

5. 参加者総数 (予定)

シニアスカウト	2160名
指導者ローバースカウト	890名
外国派遣隊	250名
ガールスカウト	200名
合計	3500名

6. 参加費

シニアスカウト	35000円
指導者、ローバー	25000円

私は、3NVの時琵琶湖の湖北を訪れて、山陰地方を感じさせる風情にふれておりました。神話の世界につながる古い歴史の香りを嗅いでおりました。是非とも出雲地方には行って見たい願望を押さえきれないでおりました。

我々の世代の頭の中には、つまり思想の中核には、神話の世界がいまだに拭いきれず鎮座して居ります。

大国主命にまつわる因幡の白兔、須佐之男命の業跡である八保の大蛇退治の神話は、誰も忘れる事が出来ません。

電車が斐伊川の鉄橋を渡る時、この上流から箸が流れてきて須佐之男命が足名椎と手名椎に会う場面を思い浮べ、感無量でした。常に出雲の空気を是非吸ってみたいとの思いがかなえられ幸せになりました。又、私は、「関東のオオ一族」という地方歴史家の本を読んでいたもので、出雲東部意宇平野を中心に勢力を築いてきたオオ一族に孫の他興味がありました。茨城の大生郷、麻生、粟生、飯富などの地名は、オオ氏に関係があるとの事です。鹿島神宮も鉄文明をもったオオ氏と深い関わりをもっているとの事です。

大会のテーマ「先人の知恵をたずねて」を実践する絶好のチャンスであったのに、5日の早朝バスで岡山県の新見草間基地へ行くことになり、当がはずれてがっかりしました。でも、オオ氏が盛んになるきっかけは、出雲西部に勢力のあった出雲臣振根を殺害した岡

山の吉備津彦に負うところが大きかったので気をとり直しました。

べっとりと縁に包まれ、霧に見えかくれる三瓶山とも別れ、新見草間第一基地に向いました。

基地は、新見駅の脇を流れる高梁川にそそり立つ直立240mの石灰岩の絶壁の上におりました。川に架かる橋を渡り七曲りのイロ八坂を登って、バスは草野球の球場に到着しました。そこがキャンプ地でした。近くに松林があって、林間教室として利用されました。そば工場や宿泊は施設もあり、行楽地となっております。

ここを拠点に、毎日講義と実技が繰り広げられました。講義が終わるとすぐ実技が行われます。5kmコースなどを、真夏の炎天下、汗びっしょりかいて息たえだえに駆け歩くものでした。オリエンテーリングは、パディ単位で行われ、成績を発表されるので、競争心の強いパディは必死でチャレンジしていました。

スカウトたちは、帰着した順にパンツ一貫になり水道で水浴びを行っていました。実は、基地のルールで、テントサイトでは裸にならないことになっていましたが、水浴びの後は、裸のままのスカウトもあり、ルールも反故の感がありました。ガールスカウトが同居している手前そのようなルールになっていたのに、すっかりくずれてしまいました。私の隊の西川君は、キズだらけの裸を見せびらかしていました。

私は、全国のスカウト達をつぶさに観察してみようと隊内のスカウトは勿論他隊のスカウトにも声をかけました。どうしても、水戸4団のスカウトと比較してしまいます。

みんな大差はないなあと思ったり、否よそのスカウトがバイタリティがあるなあと思ったり、態度や思考力はうちのスカウトが優れているなあといき目にみたりします。いずれにしても多種多様な人間の集まりであり様に片付けてはいけぬ。1人1人をとりあげても、多面的に見る必要がある。態度は悪いが人なつこい。おとなしいが頑として云うことをきかない。片付けることが出来なくて、しまりがなければでも成績は良い、等々。

福岡のヨシオちゃんは、人なつこくて、何かかにか話しかけてきて私の顔をのぞいてゆきます。お母さんの手造りの梅干を持って来て「食いなせー」とすすめたり、自分は当番でもないのに、サイト内の塵を拾ってゆきます。やさしいが運動神経の鈍そうな口振です。

愛知の松尾君は、地元との交流会の時、有志の方々が太鼓やバンド演奏をされた3時間余りの間、ずーっと聴くのはそっこのけでアニメの話や延々と話し続けていました。彼の語りの聴衆の中に、茨城1団の林君

も入っていました。林君は、怖い話をしながら、とうとう自ら怖くなって涙を出し始めました。ほんとうに理解に苦しみます。彼とその聴衆3、4人は、地元との交流を全然無視してしまいました。林君は感激してしまっていました。そのかわり、自分も宗教の話なら3時間でも平気で話せると主張しておりました。

先にちょっとふれた大阪岸和田の西川君は、基地で一番目をつけられていました。何か問題を起こしはしないかと。彼は小つぶでやせているのに、茶髪で威張っていました。岸和田から10名位来ていたスカウトを束ねていました。従って、私の云いつけも簡単には聞きません。皆んなの手前ヘイコラ出来なくて、ぞんざいにあしらっていました。

彼の胸からヘソにかけて十文字の大きなキズがあり、背中にもえくつたようなはでなキズがありました。彼はそれを武器に仲間を手なずけていたのかも知りません。皆んなを鼻で指図しておりました。しかし、彼も地位を維持してゆくのには大変神経を使っている様に見受けられました。人なつこいところがあって、私は彼にずいぶん助けられました。

基地本部は、期間中無事であって欲しい、何ごとかを起こすのは、彼ではないかと常に監視していました。しかし、ある夕方、ふらりと本部へ立寄り、副基地長や役員達に岸和田のダンジリのことを講釈している彼を見かけました。「うちの息子が何しゃべってんだか」と声を掛けると益々得意になって、とうとうと語っていました。それからは基地本部ともうちとけて、にらみ合いもなくなりました。

スカウト達は、熱に浮かされて、最後の夜は寝ないつもりだなどと息まいて居ました。彼等が夜中をどう過ごしたのかは、リーダーの宿舎が遠く離れていたので、確かには、わかりませんでした。となりの隊が盛り上がっていると、こちらも負けじと歌を張り上げます。広島の岡川君が音頭をとっているようでした。

問題行動や態度の悪さも目くじらを立て始めるときりがありません。むしろ、コミュニケーションがとれるようになると拍子抜けする位、対立の緊張が融けておだやかな気分になれます。

私は彼等に出逢の大切さを話しました。50億の人が地球上に居る中で、出逢うことが出来る機会は奇跡に近い。ふれあったからにはお互いに影響しあう必要がある。出逢ただけでは、石と出逢ったようなものだ。あなた達は、この世の中に選ばれて生れている。選ばれた生命をお互いに大切にしよう。地球の歴史からすれば、私達は一瞬の生命に過ぎない。同世代を生きる同士になろう。ちょっとばかりの苦痛でネをあげるような事にならぬように、気をひきしめ

よう。と云うような事を話しましたが、茶化す者も居たり、受け取り方は様々であったと思います。

一律に同じ方向に向く必要性はありません。むしろ、それぞれ自分の道を見つけて突進して欲しいと思います。私の隊では、茨城1団の林君と中村君だけが、ポーン方式で特別賞を貰いました。他の賞は全てD隊とE隊にもってゆかれました。

水戸4団から参加した4人のスカウトも他所の基地で存分に楽しんできました。そして、出逢の大切さに目ざめたり、関係者や親に感謝の念を抱いております。実践によって多くの事を学んで来たようです。そのままの意欲を維持するように願っています。

叙勲・表彰のお知らせ

第14号を編集・校正しているうちに、2つの嬉しい情報が入りましたのでお知らせいたします。

理事長 刈部 操さんが
11月3日の秋の叙勲で

「勲6等単光旭日章」

を受賞されました。

また、11月22日に

副理事長 川又光男さんが

文部大臣から

「社会教育功労者」

として表彰されました。

正副理事長がともに受賞されたことは、誠に喜ばしいことです。

第1回第5地区キャンポリー開催の報告

8月2日から5日までの3泊4日の日程で、第1回の第5地区キャンポリーが開催された。このキャンポリーの構想は10余年も前からあったが、なかなか実行できずにいたものを昨年、地区コミが中心となって各種委員会そして多数のリーダーの協力によって企画し、ここに実現したのである。

今回の5地区キャンポリーの会場は、福島県いわき

市にある鬼ヶ城というところで、以前に東北キャンポリーが実施された。鬼ヶ城山の西斜面に広がる緩やかな傾斜の草地である。施設側の受入れ・支援体制もよく、とても快適な運営ができた。

さて、今回の大会の趣旨・目的は、「通常の訓練で培った技能の発揮とともに、地区内各団の交流を通じ、相互理解を深め、各団の一層の発展と、さらには当地区の発展に寄与することを目的とする。また、地球環境の保護を願い、我々は地球とそこに住む多くの生物に対して何ができるかを考え“スカウト環境行動スローガン”の実践に努める。」という、自然環境保護に対してスカウトとして何をどのように実践するのかを具体化し実行するものにし、そのテーマを「Good Company of Nature（自然と仲良く）」に定め、参加隊それぞれがそれを実現するべく積極的に行動した。

開催形態としては、各隊合同キャンプとしたが、プログラム自体は、各隊が企画する鬼ヶ城山登山や入水鍾乳洞探検などのSCプログラムに加え、GHQのプログラムがたくさん用意された。全体行事のメインきキャンポリー大集会。「鬼ヶ城・地獄めぐり」と題する、知恵と体力を駆使して難関を突破し難攻不落の鬼ヶ城を攻めるもので、攻略順にうまい焼肉にありつける趣向だ。この焼き肉は羊半身、牛もも数本というダイナミックである。他には技能章を取得できるアーチェリー、班ごとに晩のおかずを作る鯉さばき十鯉のたたきコーナー、銀河鉄道の夜ツアー（天体観察）改め野外大映画大会、エコキャンプの実践度を見るキャンプサイトコンテスト、チャレンジプログラムの火起こし、日時計、ナイトゲーム等々相当内容の濃いプログラムとなった。中でもキャンプサイトコンテストは、“スカウト環境行動スローガン”を如何に自分たちのキャンプサイトで実現したかを競うもので、スカウトたちがそれぞれ8つのサイトを見て回り、互いに評価を合い、良いところを学びとっていった。

大会中の4日間の天候はというと、初日と最終日はうだるような猛暑となり、つらい設営・撤営になった。しかし、中2日と夜はまるで秋のような涼しさで、しかも霧と風に包まれ、夏の装備だけでは対応できない状態であった。標高500mと侮っていたが、いくら標高が低いとは言え、山間部では天候の急変に対応できるだけの装備は必要であることを痛感させられた。

このような中で大会が運営されたが、いくつかの点で反省すべきところはあったものの、スカウトの頑張りとリーダーや支援スタッフの共同によって、第1回目としては十分なる成果をあげて大会を終了することができた。

富士スカウトの塚本君 英国で活躍

茨城県連盟で第1号の富士スカウトになった塚本君は、現在ロンドン大学の国際政治学科の3年生としてイギリスに滞在されておりますが、ロンドンのハンブステッド第22団のボーイ隊の副長として、学業とともにボーイスカウト活動に活躍されており、研修所を修了されこの10月には、本場のギルウエル野営場で実修所を修了されました。

今年の夏休みに事務局を訪問された際、日本連盟のSCOUTING 11月号に英国で活躍の記事をいただきましたので、お知らせいたします。（堀江事務局長）

海外派遣をさらにすすめて・・・ロンドン大学在学中

英国でスカウト活動に 参加しています

英国でのスカウト活動を通して

イギリス・ハンブステッド第22団ボーイ隊副長
（茨城・水戸第四団所属）塚本 崇

私が英国のスカウト指導者となり三年目となりした。初めは戸惑いもありましたが、今では月一回は自分一人で隊集会を運営するようになりました。

英国のスカウト隊の場合、週に一度、二時間程度の集会を行います。ほとんどが屋内の活動で、ゲームをしたり、日本でいう進級章や特修章に必要な訓練を行います。また、自分の隊では毎年7月の終わりから8月の初めに長期キャンプをしています。スカウトにとっては楽しいけれども忙しい活動でしょう。日本の活動との一番の違いは、スカウトと指導者という関係が友だち関係に近く、よい意味でいつも和やかに集会を運営できるような気がします。

私はリーダーシップトレーニング（日本でいうウッドバッジ研修所、実修所）を受講しています。スカウト活動とはどういうものなのか、隊集会を運営するため考えなければならない問題、スカウトの進級課程、プログラムの組み方、評価の仕方、そしてスカウトは活動を通してどのように成長すべきかなど、一つ一つの知識や技能がしっかりと頭に入るので、受講者の立場としてとてもよいと思います。

英国の指導者となり「スカウト活動に国境はない！」ということを痛感しました。黒人も白人も黄色人種も、

スカウティングの中では皆同じスカウトなんです。いかにスカウティングを楽しむかが一番重要なことだと思います。今、私は自分を入隊させてくれたハンブステッド第22団に本当に感謝しています。そしてできる限り長い間、自分のスカウトたちと一緒にいたいと思います。(SCOUTING11月号より)

ウッドバッジ研修所

※ボーイスカウト課程 茨城第22期

※カブスカウト課程 茨城第25期

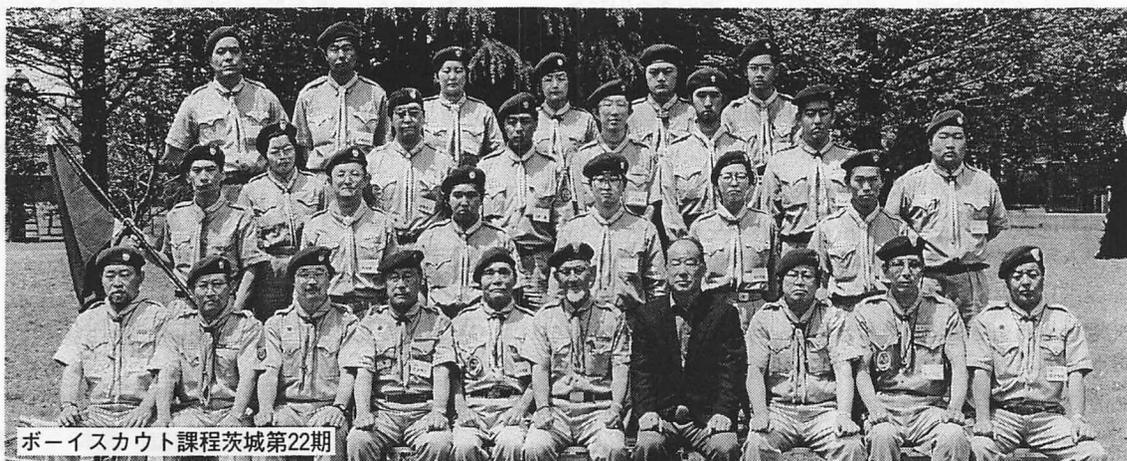
平成 8年 5月3日～6日

土浦市 土浦青少年の家

カブスカウト課程茨城第25期は、津久井所長のもと17名が修了されました。

ボーイスカウト課程茨城第22期は、小林所長のもと19名が修了されました。

北岡 隆コーターマスターはじめ、第5・第6地区の多くの皆様のご奉仕により、研修所が無事終わることが出来ましたことを、心より感謝いたします。



ボーイスカウト課程茨城第22期



カブスカウト課程茨城第25期

編 集 後 記

SCOUTING茨城の第14号から、広報委員長として中島清行さんが選任されました。

委員長不在のまま、事務局で編集しておりましたが広報の専門家の就任で、今後は新しい紙面となると思います。

第2回オーストラリア派遣・第4回シニアスカウト大会・スウェーデン国王陛下の特別晩餐会、研修所CS課程第25期・BS課程第22期、スカウト奉仕の日などについて載せました。

また、突然でしたが副連盟長に就任されました吉田先生が急逝されましたので、その記事を入れました。